

患者の既往歴を考慮した服用方法の提案

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者の服用状況を確認し既往歴を考慮することで、より良い治療の提供に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- 右乳がん術後再発に対して乳腺悪性腫瘍手術目的の患者。
糖尿病があり、入院後治療開始予定である。
アルツハイマー型認知症があり、内服薬は夫が管理している。

【処方】

リスパダール®内用液 1 mg/ml 0.1% 1回 2ml 1日1回眠前
※その他内服薬（錠剤）あり。

Kさん



Kさんの夫



こんにちは。
お薬はご主人が管理されているんですね。
普段お薬はどのように飲まれていますか。



薬剤師



錠剤は白湯で飲ませています。
リスパダール®内用液を白湯に溶かして飲ませると、嫌がってあまり飲んでもらえません。ヤクルトや牛乳に溶かすと嫌がらずに飲むので、その方法で飲ませていました。



なるほど。そうだったんですね。
糖尿病の治療も開始されることと思いますので、糖分のある飲み物での服用を続けるのは難しいかもしれませんね。医師と相談してみます。



よろしくお願ひします。

《上記を報告・相談》

いかがでしょうか。リスパダール®以外は錠剤で内服されている様ですので、内用液から錠剤への変更が可能かと思ひます。



医師

そうですね。お薬は白湯で飲んでもらった方がいいですね。
リスパダール®は錠剤へ変更しましょう。



その後Kさんはリスパダール®内用液から錠剤へ変更され、他剤と同様に白湯で錠剤の服用を継続することができている。服用状況を聴取し患者の既往を考慮することにより、患者に適した医療の提供に貢献できた。